

【山陽小野田市における学校の適正規模】

山陽小野田市においては、大規模校がないことから（表1参照）、これを審議の対象からはずし、小規模校について、そのメリット・デメリットを検討し、望ましい学校規模を審議し、次の結論を得た。

- (1) 1学級の学級人数については、小学校・中学校ともに「35人以下」が適正であるとする。委員である現場の先生の意見によれば、1学級20人程度いけば学級運営に支障はないとのことであった。「35人以下」としたのは、1学級の人数を30人とした場合に、31人になると15人と16人となり、20人程度ではなくなるため、1人増えて36人となり2学級に分かれても18人となる1学級35人を、現在行われている中学校35人学級化支援事業をも考慮して、採用した。
- (2) 1学年の適正な学級数は、小学校については、クラス替えができ、発展的な学習が可能な「2学級以上3学級以下」と、中学校については、教科に必要な教員数の確保と発展的な学習が可能な「3学級以上6学級以下」と考える。

【山陽小野田市における学校の適正配置】

適正配置については、児童生徒数、学級数の将来推計を見据え、学校の適正規模に基づき、次の結論を得た。

(1) 適正配置の方法

学校の適正配置の方法については、「通学区域の変更」と「学校の統廃合」が考えられる。適正配置を実施するに当たっては、まず隣接校との通学区域の変更について検討し、これによっては適正規模の確保が困難である場合に、学校の統廃合をも視野に入れて検討することを望む。

(2) 適正配置に当たっての留意事項

ア 通学区域の変更に当たっては、通学距離・通学時間、通学の安全性確保、主要幹線道路や河川等の地理的条件、自治会区域との整合性、地域とのつながりなどを考慮すること。

イ 通学区域の変更に当たっては、一つの中学校区に、複数の小学校区を設定することが望ましい。



▲ 7月から7回開催された委員会のようす

【表1】市内小・中学校の規模

学級数	規模区分	該当小学校	該当中学校
1 ～ 5	過小規模	無	厚陽中
6 ～ 11	小規模	有帆小 高泊小 赤崎小 本山小 厚陽小 出合小 埴生小 津布田小	竜王中 厚狭中 埴生中
12 ～ 18	適正規模	高千帆小 小野田小 須恵小 厚狭小	高千帆中 小野田中
19 ～ 30	大規模	無	無
31 以上	過大規模	無	無